

# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□中□

「つたよつです」と言う。

和洋楽器組み  
合わせて曲に

生を二回送り出した。「今の子供たちはパンチのきいた音楽が好きですね」。

好きな作曲家はマーラーとブルックナーだという。「今

現在まで二十数曲を生み出してきたが、一切の制約を受けないで専念した卒業作品が

出発点だけに忘れられない作品だという。「しかし中央での

作曲活動は甘くないし、やはり名作曲家にも見られるが泉さ

んは「春採の秋」のように郷土の風物をつたい上げる。こ

の作品について泉さんは「静と動を折りませた春採湖の秋

を音で描きたかった」と語っている。「これからも生涯作曲

を続け、美しい音楽を書いていきたい」と、受賞を機に創作

欲もいよいよ盛んだ。

全

効

民

路

後

す

会

究

研

究

生

活

動

の

こ

の

こ

の

こ

の

こ

思い出の多い  
卒業作品  
音楽の中で作曲というジャンルに飛び込んだのは、国立音楽大学（作曲学科）に入学校時代からの志望だが、ピアノは幼時からレッスンを始め、その卒業作品「弦楽八重奏のための一章」は「次席」に選ばれ、思い出の多い作品として残った。作曲は高



## 郷土の風物を題材に

### 作曲続け美しい音楽を

で、泉さんを鍵盤に親しませる導き手となった。兄の春夫さんも現在、春採中の音楽教諭を務めている。

泉さんが作曲したピアノ曲「そして静寂の中へ」は、釧路音楽協会新人演奏会で自ら

演奏された。釧路市立博物館で開かれたミュージアム・コ

ンサートで披露された作品だが、これはチェロと琴による

二重奏として改めて注目され

た。泉さんは「素材と良き演奏者に恵まれて、評判も良か

を」と語る泉さん

## 音楽

泉 史夫さん(三〇)

釧路市富士見3の6の29

